

相談支援センター

平成 27 年度事業計画に基づき以下の事業を運営いたしました。

	事業名、事業種別	実施主体	開始年月	相談体制
主に生活全般に関わる事業	埼玉県障害児等療育支援事業 (公益事業)	埼玉県	平成 11 年 10 月	5 名
	相談支援事業 (委託、一般、特定) (第 2 種社会福祉事業)	埼玉葛北地域自立 支援協議会 (4 市 2 町)	平成 18 年 10 月	4 名
	地域生活定着促進事業 (公益事業)	埼玉県	平成 22 年 5 月	2 名
	子どもの発達支援巡回事業 (公益事業)	埼玉県	平成 23 年 7 月	2 名
就労に関わる事業	久喜市障害者就労支援事業 (公益事業)	久喜市、白岡市、 宮代町	平成 16 年 6 月	1 名
	障害者就業・生活支援センター事業 (公益事業)	埼玉労働局 埼玉県	平成 19 年 4 月	6 名

※各事業の体制は兼任にて実施

相談支援センターは、障害のある人と、その家族の日常生活など様々な相談を受けました。

支援センター全体では、登録者は 1,193 人 (生活 478 人、就労 715 人)、相談、個別支援件数は、年間 6,722 件 (生活 1,994 件、就労 4,287 件、定着 441 件) となりました。スタッフ 1 人あたり平均 611 件 (支援センター職員数 11 名) の相談に応じました。(サービス等利用計画除く)

1 ケアマネジメントによる相談支援体制の充実

- (1) 幸手保健所管内 4 市 2 町 (久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町) の委託を受けて相談支援事業を行いました。埼玉葛北地域自立支援協議会のケアマネジメント部会 (支援会議) (別表 1) を中心にケアマネジメントを実施しました。課題としては、緊急時の短期入所施設等の不足・グループホームへの入居ニーズ増加、成年後見制度の利用支援などが見られました。
- (2) 相談の内容は、生活に関する相談 49%、医療に関する相談 19%、職業に関する相談 7%、教育に関する相談 3%、施設に関する相談 17%、その他 5%でした。

① 生活の相談 (977 件)

- ・家族からの支援を受けられない利用者への支援

両親が高齢に伴い入院・死去等でいなくなってしまった利用者に対して、各関係機関と連携しながら、可能な限り住み慣れた地域での生活が維持できるよう支援しました。

また、親からネグレクトを受けて心身ともに機能低下してしまった利用者に対して緊急介入し、適切な支援を受けられるよう、各関係機関と連携しながら支援しました。

- ・自宅にこもりがちな人への支援
長年自宅から外出せずに生活している利用者に対して、定期的に自宅訪問を行い、相談員との関係性を築きながら社会の中で生きて行けるように、支援を行いました。
 - ・単身生活の援助
精神科からの退院・宿泊型施設からの地域移行等で単身生活を始めた利用者に対して、各関係機関と連携しながら、安心した地域生活が継続できるように支援しました。
 - ・福祉サービスの利用援助（役所への申請、施設の情報提供、見学・実習の調整）
本人・家族では制度の理解が難しく利用手続きが困難な利用者や家族に対して、申請を援助したり、各関係機関との間に入って円滑かつ適切に福祉サービスが利用できるように支援しました。
 - ・成年後見法に関する情報提供、手続き支援。
成年後見制度に関しては、手続きの支援、障害の特性に合わせた後見人を探すことが課題となりました。
 - ・余暇支援 等々
- ② 医療の相談（379件）
- ・精神科受診が必要な利用者について、本人の状況を正確に医療機関に伝えることで適切な治療が受けられるよう支援しました。
 - ・病院でのアドバイスを生活場面に応用するため、病院ケースワーカーと個別支援会議を行う等、連携を図りました。
 - ・精神科病院の入院当初から、病院関係者と地域内の関係者で個別支援会議を開催し、退院後の生活環境を整えました。
- ③ 職業の相談（140件）
- ・就職相談（訓練先施設、就業・生活支援センター等関係機関との連携）
 - ・就労者の生活状況の見守り
- ④ 教育の相談（60件）
- ・不登校、不適応を起こす生徒の相談については、学校生活を送れるよう学校において関係者を集めての個別支援会議を行い一貫した支援が行えるよう、調整しました。
 - ・大学、専門学校卒業時に進路が決まらなかった利用者に対して、療育手帳の取得手続きの支援、心理検査を行い、各種サービス事業所につなげる支援を行いました。
- ⑤ 施設に関する相談（339件）
- ・グループホームの利用ニーズが増えていますので、各事業所と入居者のアセスメントを協働で行いました。

（別表1） ケアマネジメント部会を以下の通り実施しました。（各回とも15：00～）

第1回 平成27年4月16日	① 平成26年度ケアマネジメント部会について ② 支援経過報告 家族への金銭要求を繰り返す利用者への対応について等
-------------------	---

第2回 平成27年5月21日	① 支援経過の報告 ② 各過程における評価検討 新規受付/施設内で他者とのトラブルを繰り返す利用者について
第3回 平成27年7月16日	① 支援経過の報告 ② 各過程における評価検討 新規受付/対人緊張が強い統合失調症の利用者について
第4回 平成27年9月17日	① 支援経過の報告 ② 各過程における評価検討 新規受付/自閉傾向が強く日中活動が継続しない利用者について
第5回 平成27年11月19日	① 支援経過の報告 ② 各過程における評価検討 新規受付/身体障害者施設にて不適応を起こしている利用者について
第6回 平成28年1月21日	① 支援経過の報告 ② 各過程における評価検討 新規受付/受診を拒否し、生活が乱れてしまった利用者について
第7回 平成28年3月17日	① 1年の振り返り まとめ ② 支援経過の報告 ③ 各過程における評価検討 特別支援学校卒業後の進路が決まらない利用者への支援について等

2 地域生活定着促進事業の実施

- (1) 地域生活定着支援センターけいわでは、平成22年に事業委託を受けてから今まで21名の出所者支援を行ってきています。
- (2) 平成27年度は、5名の出所に向けた調整支援、出所後の刑余者22名のフォローアップ支援、5名の相談支援を行いました。
- (3) 平成27年度5名の出所者の内訳は、障害児（少年）2名・障害者2名・高齢者1名となっており、特に少年ケースは埼玉県地域生活定着支援センター全体として増加傾向にあります。また、高齢者の中には要介護度が低いために介護保険サービスに該当せず、福祉的な支援につなげたくても対象にならないケースが多くあります。
- (4) 対象者の支援を行う上で、矯正施設・保護観察所・福祉事務所・福祉施設・医療機関等、多分野の関係機関と連携した支援を行いました。

3 就労支援事業の充実と支援体制の強化

- (1) 平成28年3月末現在、登録者715(642)名です。(カッコ内は26年度の数値)
内訳は、身体障害者66(63)名、知的障害者444(406)名、精神障害者205(173)名でした。平成27年度就労者数は402(369)名。新規就労者は39(46)名。内訳は知的障害者18(30)名、身体障害者5(3)名、精神障害者16(13)名。平成26年度就職者の中で、1年間離職せずに就労が続いている利用者が67(76)%となっています。

職場定着率が低下した要因の一つとして、会社都合が挙げられます。具体的には、原油安等の影響によりリサイクル業の業績が悪化し、事業所の閉鎖が3社あり、合計5名が会社都合で退職しています。会社都合の退職者を除いた職場定着率は78%です。

① 求人状況について

障害者求人の傾向として、平成25年から障害者の法定雇用率が民間企業では1.8%から2.0%に引き上げられました。企業においては、仕事内容が難しい、要求水準が高い、短時間労働を認めないなどの企業が多く、登録者のニーズに合致しないことが多々あります。

② 就労前訓練のニーズ

支援センターの相談者は「自力で就職できない」あるいは就職できても「仕事が長続きしない」という方が多く、その理由として職場で必要となる職業能力や社会性などの就職準備性が不十分なケースが多く見られます。

訓練する場としては、就労移行支援事業所等の福祉施設や、企業での委託訓練などがありますが、このような就労前訓練を行ったケースでは、支援者も本人の特徴をつかむことができ、その客観的なアセスメントをもとに企業につなぐジョブマッチができました。

③ 就労継続支援のための支援

企業の多くは障害者雇用の担当者が配置できず、障害者雇用の経験が少ない、あるいは扱いに苦慮している企業も多くあります。そこで、職場での1日の流れや作業手順を写真に撮り、言葉などをつけ加えてマニュアル化しており、利用者に対して視覚的にわかりやすく提示することで、就労の定着が図られました。

また、職場定着支援担当者が職場を巡回して、問題の早期解決を図りました。

④ シャインの会（利用者交流会）の活用

シャインの会は、在職中の人を対象に、就労だけではなく、交流の場、生活をする上での知識などを学習することにより、職場定着の促進を図るとともにより豊かな生活が送ることができることを目的としています。27年度は4回実施し、毎回のグループワークに加えて、食事の安全な摂り方の講義、当事者による会社紹介、久喜警察署による交通安全教室、久喜警察署による防犯教室を行いました。

⑤ 離職者への支援

就労への再チャレンジの支援では、本人の苦手な作業内容や人間関係の状況など課題を整理し、就労移行支援事業所などの訓練機関に繋げ再就職への支援をしました。

(2) 埼葛北地域自立支援協議会就労支援部会の開催（表2）

埼葛北地域自立支援協議会の就労支援部会を、地域の就労支援センター、支援機関等が集まり、5回開催しました。

(表2)

()は参加者

第1回平成27年5月19日(火) 13:30～15:30	会議「平成25年度の振り返り、平成26年度の内容について」	ふれあいセンター久喜 (就労支援センター)
第2回平成27年6月9日(火) 13:30～15:30	テーマ「教育と福祉の連携について」 ① 久喜、宮代、羽生ふじ、特別	ふれあいセンター久喜 (就労支援センター、行政、ハ ワーク、相談支援事業所、特別支

	支援学校 3 校からの報告 ② テーマをもとに意見交換会	援学校、医療機関、通所事業所)
第 3 回平成 27 年 10 月 22 日 (木) 13:30～15:30	リレーションシップセンター久喜 見学会	リレーションシップセン ター久喜 (就労支援センター、行政、ハ ワーク、相談支援事業所、特別支 援学校、医療機関、通所事業所)
第 4 回平成 27 年 12 月 8 日 (火) 13:30～15:30	講義「障害者雇用と地域の現状に ついて」 講義・演習「精神障がいをもった 方のアセスメントと支援につい て」	はびす白岡 (就労支援センター、行政、ハ ワーク、相談支援事業所、特別支 援学校、通所事業所)
第 5 回平成 28 年 2 月 22 日 (月) 13:30～15:30	シンポジウム「就労継続 B 型事業 所からの就労や福祉的就労を考え る」	ふれあいセンター久喜 (就労支援センター、行政、ハ ワーク、相談支援事業所、特別支 援学校、通所事業所)

(3) 関係機関との連携

就労支援においても、本人を取り巻く関係機関（企業、福祉施設、行政、相談支援事業所、精神科病院等）と連携した支援が不可欠です。

個別支援会議において職場での課題について確認し、企業で話し合いやジョブコーチをしながら課題の克服を目指しています。

4 利根障害保健福祉圏域における障害者支援のネットワークの活用

緊急・困難なニーズに対しても対応出来るよう、日頃から地域の各事業（コミュニティーソーシャルワーカー研修、埼玉北地域自立支援協議会、就労支援サポート研究会、久喜市精神保健福祉関係機関担当者連絡協議会等）に参加し、ネットワークを広げました。

5 療育相談機能の充実

- (1) 障害児等の相談については、専門スタッフを配置したことで、手帳未取得で発達に心配の有る児童を持つ親からの相談が増え、知能検査を希望する方も多くなっています。その後の生活支援についても各関係機関との連携により対応しています。
- (2) 子どもの発達支援巡回事業を埼玉県から受託して実施しました。事業は発達が気になる子どもへの支援について保育士や幼稚園教諭の相談に応じる事業です。巡回は 34 件で 111 人の子どもの相談に応じました。傾向としては、「行動面では目立たないものの対人関係がうまく築けず、一人で困りごとを抱えている」ケースが多くありました。各園の相談に対して、専門スタッフによる定期的・継続的なサポートを行いました。

6 地域住民やボランティアとのふれあい

久喜市社会福祉協議会と協同で、月 1 回、圏域に住まう在宅の知的障害者が交流する場、「みんなの会」を運営しました。月ごとの活動の運営はボランティアが中心に行い、センターでは企画運営面を担当しました。

7 まとめと課題

就労相談では、センター全体の職場定着率（1年間の継続勤務）は会社都合を除くと78%ですが、精神障害者・発達障害者においては67%となっています。精神障害者・発達障害者の職場定着は、就労前の本人の自己理解と支援者のアセスメントが不可欠です。平成28年4月から、リレーションシップセンター久喜内に久喜市障がい者就労支援センターのサテライトを開設しました。これによって、利用者の利便性が高まると共に、就職における相談、アセスメント、訓練という一体的な流れが一つの場所で行えるようになりました。今後も地域のニーズに応える支援体制の強化に努め、各相談員が利用者のニーズに向き合いながら、適切かつ迅速に支援していきます。

8 その他

（表3 委員、研修スタッフ派遣実績）

委員会、研修会	主催	日時	場所	委員等
幸手市、宮代町、杉戸町障害支援区分審査会	幸手市、宮代町、杉戸町	随時	各庁舎等	桜井
みやしろ健康福祉事業運営委員会	宮代町	随時	宮代町役場	袴田
発達障害福祉協会青年部会	埼玉県発達障害福祉協会	随時	すこやかプラザ	袴田
相談支援専門員（初任・現任）研修準備会及び研修	埼玉県障害者支援課 県社会福祉協議会	5/8 他	すこやかプラザ他	桜井、袴田、阿久津
サービス管理責任者研修準備会及研修（地域生活、就労他）	埼玉県障害者支援課 県社会福祉協議会	12/14 他	県庁他	桜井、渡邊、小林、袴田
虐待防止権利擁護研修	埼玉県障害者支援課 県社会福祉協議会	2/2	さいたま市商工会議所会館	袴田

（表4 研修参加）

研修名	主催	日時	場所	参加者
コミュニティーソーシャルワーカー研修	久喜市社会福祉協議会	5/28他	ふれあいセンター	桜井、阿久津、須沢
相談支援従事者初任者研修	埼玉県障害者支援課 県社会福祉協議会	6/4 他	すこやかプラザ他	増田、須沢

社会福祉士実習指導者講習会	埼玉県立大学	5/30,6/28	埼玉県立大学	袴田
関東地区知的障害福祉関係職員研究大会	関東地区知的障害者福祉協会	7/8	群馬音楽センター	桜井
関東地区知的障害関係施設種別代表者会議 埼玉大会	関東地区知的障害者福祉協会・埼玉県発達障害福祉協会	11/10	ソニックシテイビル	桜井、袴田
埼玉県地域生活定着支援センター研修会	埼玉県地域生活定着支援センター	11/28	ソニックシテイビル	桜井、渡邊、阿久津、小林、日下、袴田
久喜市市民後見推進事業 成年後見フォーラム	久喜市社会福祉協議会	1/9	久喜総合文化会館	桜井、阿久津、須沢、日下、小林
全国定着支援センター連絡協議会スキルアップ研修	全国定着支援センター連絡協議会	1/26,27	大宮ソニックシティ	渡邊、日下、袴田
全国相談支援ネットワーク研修会	日本相談支援専門員協会	1/30,31	国立オリンピック記念	桜井、袴田、阿久津、須沢